

ふれあいニュースレター

【政府原子力被災者生活支援チームからのお知らせ】

今号の **ほっと・ニュース**

南相馬市で恒例のクリスマスイルミネーションが始まりました。

「あかりのファンタジーイルミネーション～あかりに託す復興への道しるべ～」と題し、11月28日から市内各地で点灯が開始され、たくさんの人でにぎわいました。



小高区内のイルミネーション
(おだか浮舟復興グループ)

NEWS 常磐自動車道浪江IC以北が開通しました

12月6日、常磐自動車道浪江IC～南相馬IC間及び相馬IC～山元IC間が開通し、福島県相双地域から仙台圏までがつながり、東北地域の経済復興の加速化などが期待されています。

それに先立つ12月2日には、安倍総理が、残る浪江IC～常磐富岡IC間

(14.3km)を来年3月1日に開通させ、常磐道を全通させると表明しました。



浪江ICでの車の列

暮らし関連2



「人が集う場所と働く場を作り出したい」

暮らし関連3



「お世話になった地域の皆さんとこれからも一緒に」

NEWS等4

年末年始の特例宿泊を実施します 等

NEWS JR常磐線の早期復旧に向けた会議が行われました

11月27日、JR常磐線不通区間の早期の復旧・運転再開に向け、関係省庁の副大臣やJR東日本の副社長等をメンバーとする『浜通りの復興に向けたJR常磐線復旧促進協議会』が開催されました。

同協議会では、沿線自治体の復興に向けた取り組み、JR常磐線の現状及び復旧に向けたスケジュールなどが議論されました。また、JR東日本からは、JR常磐線の不通区間である原ノ町～竜田駅間について、来年2月をめどに代行バスの試験的運行を開始する旨、発表がありました。



暮らし関連情報

◆◇特定非営利活動法人 浮船の里(南相馬市)◆◇

「人が集う場所と働く場を作り出したい」

「小高の人たちが集まっているいろんなことを語り合える場所を作りたい」、そんな思いから、NPO「浮船の里」を2013年4月に立ち上げ、同年5月から、コミュニティスペース「あすなろ交流広場」の運営を始めました。

「あすなろ交流広場」の運営が始まってから、毎月末に「芋こじ会」※と銘打った集まりで互いにつもる思いを打ち明け、語らってきましたが、2013年9月に開催した4回目の会合で将来について語り合う中で、以前この地で盛んだった養蚕が話に出ました。

それがきっかけとなり、「将来を見据え、小高に帰ってくる人たちのために、働く場所を作らなければ」という考えをメンバーと共有し、今年6月から500頭の蚕で養蚕プロジェクトを始めました。

来年からは養蚕の規模を拡大するとともに、将来的には絹製品の生産まで手掛けたいと考えています。そのため、糸をつむぐ技術や機織りの技術について、外部の方から技術支援を受けながら習得に努めています。



あすなろ交流広場にはいつでも人が立ち寄ることができます。



「小高ブランド」の絹製品を育て上げるのが目標です。

特定非営利活動法人 浮船の里
右：永木さん
中：久米理事長
左：(株)エクスブレイン 和田代表取締役(協力)

小高に人を集めるという初心を大切にしながら、機織りなどは手作業にこだわり、多くの人に関わってもらえるようにしたいと思っています。

全工程を小高で手掛けて、絹製品を小高の特産品として育て上げるのが目標です。



たくさんの繭をつむいで真っ白な絹糸にします。



小高ブランドの製品作りのため、機織りを学んでいます。

※「芋こじ」：水と一緒に桶に入れた泥つきの里芋をかき回し、芋同士をぶつけて泥を落とすのと同じように、思いをぶつけ合って磨いていこう、というねらいで名付けました。



特定非営利活動法人 浮船の里
福島県南相馬市小高区大井字深町76番地
連絡先：ukifunenosato@gmail.com
(◆を@に変更してください)



暮らし関連情報

◆◆川俣理工株式会社(川俣町)◆◆

「お世話になった地域の皆さん とこれからも一緒に」

電柱、産業用ロボットや医療用機器の変圧器に組み込まれるカットコアと呼ばれる部品を製造しています。昭和50年からカットコアの製造から販売

までを手掛ける(株)理工産業から生産部門を切り離して、昭和63年に川俣理工(株)として発足しました。

現在28名の従業員で、顧客の要望に応じて数百種類の製品を作っています。

震災発生当時、停電が数日続いたことなどもありしばらく操業ができませんでしたが、幸い工場建屋や設備への被害はなく、従業員もほとんどが残ってくれました。県外を含め遠くに避難した従業員もいましたが、できる範囲で集まってもらい、操業を再開しました。また、顧客の皆さんから継続して発注いただいたことも事業の継続に大きく寄与しました。

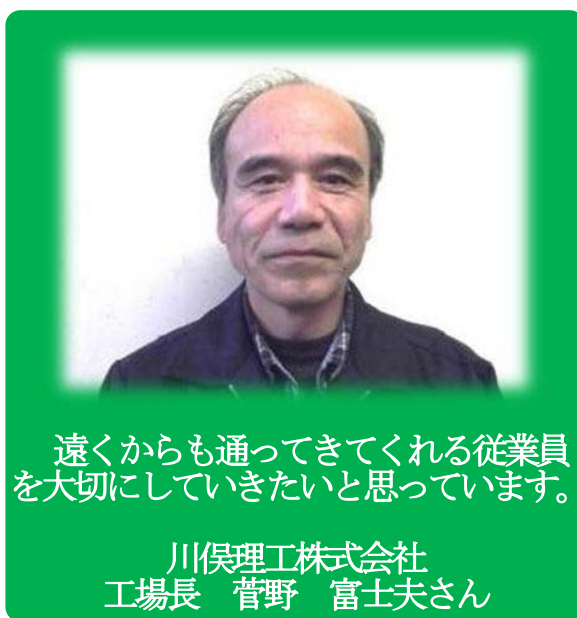
少人数ながら退職してしまっただけでなく、震災前に比べ生産が減っていましたが、本年12月から2人の採用が



材料の鋼板を注意深く芯に巻き付けていきます。



様々な形に巻いて圧縮したものを加熱炉に入れます。



遠くからも通ってきてくれる従業員を大切にしていきたいと思っています。

川俣理工株式会社
工場長 菅野 富士夫さん

かない、ようやく震災前と変わらない生産体制に戻る予定です。

これからも、懸命に仕事に取り組んでくれている従業員とその家族を大切にしながら、これまでお世話になってきた地域の皆さんと一緒にがんばっていききたいと思っています。



接着・切断した後に、切り口をきれいに磨きます。



工場と事務所は国道114号沿いにあります。



川俣理工株式会社
福島県伊達郡川俣町山木屋宇野取場山8番4号
連絡先：024-563-2335



年末年始の特例宿泊を実施します

通常は宿泊が禁止されている避難指示区域内において短期間の宿泊を認める「特例宿泊」について、今年度の年末年始の期間においても実施することとなりました。

■ 実施予定市町村及び宿泊期間

実施予定市町村	飯館村	南相馬市	川俣町	葛尾村	川内村	楡葉町
宿泊可能期間	12/20-1/18	12/20-1/18	12/20-1/18	12/20-1/18	12/27-1/4	12/24-1/7

■ 申し込み先

- ◆川内村を除く各市町村共通 0120-556-786 受付時間 8:00~21:00 (土日祝含む)
- ◆川内村(復興対策課) 0240-38-3804 受付期間 9:00~17:00 (土日祝除く)



広野町に放射線相談室が設置されました

町民の放射線による健康等の不安解消のため、11月1日付けで、広野町役場1階に「広野町放射線相談室」が設置されました。ここでは町民から選任された室長、看護師および外部の専門家が、相談会の開催、町内や避難先への訪問活動や個人線量計データについての適切な説明などを行います。将来的には、町民主体の運営による相談所の開設を目指しています。



左から
鈴木室長、木幡相談員、遠藤町長



楡葉町で“まちめぐり”バスツアーが行われました

11月8日と14日の2回にわたって、楡葉町の復旧・復興の取組状況を知ることとした「ならはの秋に触れる“まちめぐり”バスツアー」が開催されました。

いわき市や会津美里町などに避難している町民約70名がJR木戸駅に集合し、双葉地域に水道水を供給する「小山浄水場」で浄水の仕組みや水質管理について説明を受けたほか、常磐自動車道の楡葉PA・スマートIC予定地や、今年7月にオープンした仮設商業店舗「ここなら商店街」などを訪れました。

また、木戸ダムで見頃を迎えた紅葉や、多くの鮭が遡上する木戸川を見て、楡葉町の秋を満喫しました。

ツアー中に行った座談会では、参加者から「浄水場の管理体制を知り水道水に対する不安が消えた」、「町の現状を確認でき復興を感じとれた」、「久しぶりに町に帰ってきて、ほっとした気持ちになった」などの声が聞かれました。



小山浄水場の水質管理を見学



楡葉PAとスマートICの
予定地を見学



美しく色づく
木戸ダムの紅葉を満喫



「ふれあいニュースレター」バックナンバーのご案内

過去の「ふれあいニュースレター」につきましては、以下のアドレスよりご覧いただくことが可能です。ぜひご覧ください。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu.html>